創世記6-8章　　　　　　　5/29

担当：五マ

【あらすじ】

＜６章＞地上には悪がはびこっており、神、心を痛める。しかしそんな中ノアだけは神を信じていた。神、ノアに箱舟づくりを命ずる。次回洪水起きる

＜7章＞大　洪　水。

＜8章＞大洪水がおわり、鳥を放って外に出られることを確認した後ノアは生贄をささげる。神、後悔。

【問い】

・２種類の文章が混ざっているのはなぜ？編者の意図は？

（P伝承とJ伝承が混ざっている）洪水の日数･箱舟に入れられる動物の数（6章20節/7章2節）

・契約をする必要について？

☆神は人間に愛想つかしたのか？ノアの一族に神は期待していない？

幼い時から悪⇒性悪説？

・結局、大洪水によって悪を消し去ることはできたのか？

・今後大洪水がないなら神を信じないのではないか？それでも信じるかい？

・ノアはなぜ生贄を捧げたの？

☆永遠に生きることは幸福か？

（時間があれば）天地創造から洪水を通して抱く神のイメージとは？

【豆知識】

旧約聖書の最初にある、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記の5つは、「モーセ五書」と呼ばれています。出エジプトから約束の地に至るまでの、イスラエルの民の信仰の歴史が書かれており、イスラエルの救いの歴史の原点となっています。

ヤーウェ伝承 ＝ J 伝承（Jahwist　ヤハウィスト）

エロヒム伝承 ＝ E 伝承（Elohist　エロヒスト）

申命伝承 ＝ D 伝承（D-Quelle　デー・クヴェッレ）

祭司伝承 ＝ P 伝承（Priestershrift　プリースターシュリフト）

　　　　　　　（J、E、D、Pはドイツ語の頭文字です。）

1.ヤーウェ伝承（一番古い）

ソロモンの治世の晩年にできあがったもので、ユダ王国に伝えられました。エルサレムの思想を反映しています。

2.エロヒム伝承（前9世紀か、8世紀）

ヤーウェ伝承と並行した伝承で、北王国で伝えられました。北王国で活躍した預言者の懸念が反映されています。北王国が滅んだとき、北王国の祭司たちがユダ王国に逃げ、持ち込まれました。

前700年～800年に、ヤーウェ伝承と一緒にされます。

3.申命伝承（ヒゼキア王の時代）

申命伝承は、主に申命記に表現されています。エロフィム伝承に似ていますが、独立した伝承で、北王国ででき、北王国からユダに逃げてきた人々によって伝えられました。

4.祭司伝承（前4世紀）

ヤーウェ伝承とエロヒム伝承が融合してできたもので、バビロンに捕らわれて行った時代（これを「バビロン捕囚」と言います）に編集されました。バビロンに流された祭司たちの書いたもので、バビロン捕囚の悲惨さの中から、救いの歴史を見ています。